

健康スポーツナースへの役割と期待



帖佐 悦男 (宮崎大学医学部 整形外科 リハビリテーション科)

はじめに

この度は、健康運動看護学会学会誌の創刊号の発刊、誠にありがとうございます。私自身、これまで健康スポーツナースの育成や活用に関わってきましたので、大変嬉しく思います。これもひとえに鶴田来美理事長ならびに役員、会員の皆様のご尽力の賜物と存じております。これから本誌をとおり、これまで以上に健康スポーツナースの活動紹介や活動成果の公表・公開を期待します。

健康スポーツナース誕生の経緯

宮崎県が、「スポーツランドみやざき」づくりを推進していることもあり、宮崎大学はスポーツ選手・スポーツ愛好家・地域住民を医学の面から支える「スポーツメディカルサポートシステムの構築」を展開し、その一環として「健康スポーツナース（健康運動看護師）」を2009年に提唱しました。その後、宮崎大学医学部看護学科をはじめ、附属病院看護部や宮崎県看護協会が中心となり「日本健康運動看護学会」を2010年2月に設立、健康スポーツナースの認定・普及などに当たることとし、第1回の学会・講習会が同年10月10日に開催されました。健康スポーツナースは、「健全な発育・発達」を意図した運動機能評価、「健康づくり」としての運動指導、「健康回復」への看護介入やスポーツイベントへの同行・支援を行うことを目的として活動を開始しました。

看護師に着目した大きな理由の1つとして、看護師自身に、健康・運動・スポーツに関心のある人が多く、日本全国で活躍していることが挙げられます。また、看護職という専門職であることから、地域住民からも運動指導、健康相談、競技会の救護要請などの期待も寄せられています。これまでも健康教室のみでなくスポーツ大会などのフィールドへの派遣実績があり、全般的かつ多様な面からサポートでき地域に最も密着した専門職であるからです。

なぜ健康スポーツナースが必要か

スポーツをあらゆる分野でサポートするには、医師、療法士、トレーナー、看護師、栄養士、薬剤師などの各専門分野のメディカルスタッフ間の連携が必要不可欠です（図）。中でも、保健・医療・福祉と同様にスポーツ分野において、人や地域に最も密着した専門職であるため、多様な観点から対応できる健康スポーツナースの担う役割は大きいと考えています。現在、国民の運動・スポーツを行う機会は増えています。「one team」のすばらしさを含め国民すべてに感動を与えた2019年RWCが成功裏に終了し、2020年東京オリンピック・パラリンピックも控え、他にも毎年開催される国民スポーツ大会（旧：国民体育大会）や各地での健康イベント・教室などがあり、健康スポーツナースの養成は急務です。

健康スポーツナースの役割・期待

健康スポーツナースの実績として、「運動器検診」への参加、運動機能の維持・改善に向けた指導、病院・施設・健康教室での指導・支援、スポーツクラブでの健康相談、スポーツイベントでの救護など多岐にわたっています。スポーツドクターの資格も数種類あり、それぞれ特徴があります。同様に日本健康運動看護学会認定の健康スポーツナースは健康スポーツを中心に学問的側面から普及・実践活動を、宮崎大学医学部附属病院看護部の院内認定健康スポーツナース等は施設での看護やスポーツ現場での活動を中心に実施するなど、それぞれの担当が連携し特徴を活かした活躍をされています。上述しましたように、健康スポーツナースが、関わる場面は多種多様であり、全国各地

で他領域にわたる健康・スポーツをサポートできますよう「one team」となり活動を進め、安全なスポーツ活動のサポート、健康維持・増進に努めて頂ければと思います。

おわりに

運動やスポーツの分野において、より専門的知識を修得した健康スポーツナースが運動やスポーツの現場に関わり、国民の健全な運動器の発育・発達、運動器の障害の早期発見・予防に貢献することで、生活習慣病、スポーツ外傷・障害、ロコモティブシンドロームやメタボリック症候群などの予防になり、その結果として、健康寿命延伸につながることを期待しています。さらに、健康スポーツナース制度が、日本看護協会、厚生労働省や日本スポーツ協会などの認定資格へと発展することで、運動・スポーツを通し、国民全体の健康が維持・増進されることを祈念し、日本健康運動看護学会の創刊号発刊にあたってのお祝いいたします。

図 メディカルスタッフの連携

